

宿縁

三月号

健康に老い・病み

健康に死んで往ける

世界へ



日本は世界一の長寿国になりましたが、同時に身近では次のような困難な問題と課題を抱えるようになりました。

医療、介護、相続、無縁といった言葉が行き交う昨今、いのちを全うすることの意味と価値に目覚めて生きていく姿勢は、生易しいことではありません。

人生とは、結局は老いて・病んで・死を迎えるのは、独り生まれ独り死んでいくことだ、誰もが免れ得ない寂しく仕方ないことだとあきらめることしかないのだとしたら、生

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派
中原寺

TEL 0477-372102
FAX 0477-372102

まれてきた甲斐も、生きていく甲斐も出てまいりません。

先日、本屋さん立ち寄った折にふと目についた題名の本がありました。一冊は元NHKアナウンサー下重暁子さんの「家族という病」、そしてもう一冊は作家五木寛之さんの「余命」です。二冊ともその題名から今日の世相の諸々の出来事が頭の中をよぎりました。

無縁ではなく避縁社会といわれながら、一方で社会貢献したいと思う人が増えてきています。社会貢献と言えば大げさに思ってもいいかもしれません。身近なゆえに束縛される家族や近親との縁を避けたいと思う反面、どこかで自分を発揮したい、存在を認められたいというものがあるのかもしれない。すなわち自己啓発への願いは誰にでもあつてその場を探し続けるところにまた人生の難しさや悲哀を感じていかなければならないのだと思います。

私たちにとって家族とは何かを否応なく考えざるを得ないのは、養老介護、親子の断絶、家庭内暴力、幼児虐待等の現実に見舞われたときです。「家族はつらいよ」という映画が放映されていますが肉親であるがゆえの辛さです。家庭にあつて構成する家族一人ひとりとはみんな個としての安全の場であり、我儘を通せる唯一の居場所と思っ

い、むやみに介入されるとどうしようも感

じてしまうのです。そこから生まれる感情

は、うるさい、わずらわしいという思いです。

しかしそうした根源は、「自我」という共通

する厄介な自己防衛の見方です。仏教では、

我見(がけん)、我愛(があい)、我慢(がまん)、

我執(がしゅう)といった、かたよった狭い見

地です。仏教ではそれが自らを苦しめ迷わす

根源だと説きますが、決してそれを根絶せよ

というのではありません。根絶しようとすれ

ばいつの間にか偽善者になります。偽善こそ

恐ろしいものです。自我とは、悲しいことに

そこから離れることが出来ない人間の持つ

共通意識です。そうであるなら共にそれを抱

えながら生きていく存在であるとの気づき

が大切なのではないのでしょうか。私は強きも

の、あなたは弱きもの、という立場からでは

なく、自我から真に解放されることのない共

に弱きものという地平に立たない限りその

溝は深まりこそすれ解決の糸口となること

はないでしょう。

そしてその地平に立つことの大切さを教

えるのが仏教です。

仏教は物事を解決する即効薬ではありません

せん。人間は辛いとき苦しいとき即効薬を欲

しがります。即効薬は一時の治癒になること

はあつても多くの薬害のリスクを伴わねば

ならないといわれます。それに比べて漢方薬

は時間をかけて飲み続けることによつてそ

の効果がでてくるのです。なぜ時間がかかる

のかと言えは自我に閉ざされた思考は昨日

気付き、人間全体を見る仏教の智慧の視点を

持つことが求められます。

私たちの積み重ねた思考の回路での「仕合

わせ」は、自分の周囲にプラス価値を集め、

マイナス価値を減らすことで実現すると考

えて取り組んでいます。しかし、人生全体を

深く見つめると、避けられない老病死をマイ

ナスと受け取るならば、すべての人が不幸で

人生の完結をすることになってしまいます。

仏教は生老病死の人生を生きることの深

い意味と価値を教えてください。自我の思考で

は、私の周囲の条件が私の幸・不幸を決める

と考えます。

しかし、仏の智慧とは自我を超えた水平の

見方から教えるので、私をとり巻く外の状

況、条件すべては私を育て、生かしてくださ

っているということへの目覚めです。

また「仕合わせ」とは、語源的に「仕える」

べきものに「出合う」ことであるといえます。

普段の私たちは煩惱に汚染された自我の思

いに「仕えている」と言えるでしょう。それ

だと迷いを繰り返し、苦の連鎖を免れること

はできません。本当に「仕える」べき「仏の

世界(智慧)」に出合うことを「仕合わせ」と

いうのではないのでしょうか。

「人間には最後まで仕事があります。念仏

を申すことです。」(曾我量深)との言葉はと

ても深い人生への意味と価値を教えてください

ているように思います。

「念仏申す」とは、仏の智慧に照らされて

生きることの感謝であり、心の豊かさに向か

【寺灯雑記】

○東京教区仏壯連盟宿泊研修会に参加

2/21～22

今年度の東京教区(二都八県)の仏教壮年会連盟結成記念日研修会は、二日間の日程で箱根湯本で開催され、およそ250名が集いました。

当寺からは壮年会メンバー4人が参加しました。

今回の研修では「親鸞聖人の足跡」をテーマとして、1日目は筑波大学名誉教授・真宗文化センター所長の今井雅晴師が「親鸞聖人の東国での足跡」と題した講義を聞きまし。越後(ご)流罪での生活から常陸国稲田を中心とした伝道の特色やその門弟たち、地域の人々との交わりなど興味深い内容でした。2日目には鎌倉組光明寺前住職の北條祐勝師が「相模・鎌倉での親鸞聖人の足跡」のお話があり、鎌倉周辺の真宗寺院の由緒とおよそ20年間にわたる聖人関東在住での念仏教化の歴史を知ることができ、有意義な研修会でした。

(石井保 記)

○千葉組連研履修者研修会に参加

2/27

松戸の天真寺さんを会場に千葉組の北、中ブロック寺院の門徒推進員養成連続研修履修者を対象に研修会が開かれ、76名が出席しました。(中原寺より4名)

この日の研修テーマは「浄土真宗の道(仏に成りたいですか?)」。ご講師の網代豊和師(埼玉県・西照寺)の問題提起を受けて話し合い法座があり、それぞれに自分の意見を語

りあいました。

まとめの法話ではご講師自身の宗教経験をお話され、困難な中にも自らの計らいを捨て、仏法をそのまま疑いなく受け入れることが大切であるとお説きくださいました。

○東京教区仏婦連盟研修会に参加

3/1

「念仏に生かされるよろこびを行動へ」というスローガンのもと694名が築地本願寺へ集い、一日研修が行われました。

午前の部では、浄土真宗本願寺派総合研究所研究員の金澤豊氏から「復興支援活動を振り返って、今、私にできること」。午後からは、同じく研究員助手の安部智海師から「震災支援を通して“聴く”ということ」を講題にお話をお聞きしました。

5年を経た現在でも、仮設住宅にお住まいの方々に対し、傾聴ボランティアを行っている体験談をお話してくださいましたが、被災者に寄り添うことの大切さとまた難しさを知ることが出来ました。

中原寺からは12名が参加し、あらためて東日本大震災の深刻さを学びました。

○「いのちの居場所を考える会」例会

3/10

地域の人たちが2か月に一度当寺を会場にして「助け合う場を作り広げよう」との趣旨から研鑽していく、「いのちの居場所を考える会」の例会に17名が出席しました。

「場の思想」で著名な東大名誉教授清水博先生の近著『いのちの自己組織“共に生きていく原理に向かつて”』を話題としなが

ら、清水先生のコメント「弱い人と一緒に生きていくにはどうしたらよいかー自己と自我についてー」を受けて、出席者それぞれが意見を述べ合いました。

「自己とは映しあいによって生まれ、自我は排除や分離に向かう」ものとの認識を学びました。次回の例会は五月十二日 十時半

○朗読「日本の名作」CDを貸し出し

この程、婦人会では日本の名作六巻を収めた朗読CDを購入し、貸し出すことになりました。日本の心を描いた名作は時代を超えて多くの人びとに感動を呼び起こしてきました。日々の仕事をしながら名作の数々を聞いて楽しむことが出来ます。どうぞご利用ください。

○東日本大震災復興支援金として寄付

中原寺ふれあい基金から金十万円を本願寺たすけあい募金に寄付しました。

【ご案内】

☆春の彼岸会法要と宿縁廟法要の修行

*日時 三月二十日(春分の日)

・一時：宿縁廟法要(廟前)

新たに納骨される方、これまでに納骨されている方々の合同法要が勤まります。どうぞ十二時半までにご来寺ご参詣ください。

・一時半：彼岸会法要(本堂)

お彼岸は、私たちにとっては、浄土すべてに願われているさとりの世界を想い、自分を見つめるときです。私たちは多くの人びとのお蔭で、自分を見

つめることができ、多くの親族知友が亡くなったことを縁として、仏の教えを聞き始めます。そのご縁を大切にしてご参詣ください。

・二時：法話「共に救われる道」

住職、前住職 (三時ごろ終了予定)

☆花まつり(お釈迦さまのお誕生日)

*日時 四月三日(日) 十時半

花まつりは仏教徒としての伝統行事です。子どもたちに親しみを持ってもらう楽しい企画で親たちと一緒にのお出かけをお待ちしています。

内容：甘茶、ボランティア落語、仏さまのお話、ゲーム、お餅つき、お花のおみやげ等。

【法座・行事の案内】

○和讃に学ぶ(高僧和讃)

三月二十六日(土) 三時 前住職

○婦人会・壮年会合同法座

四月三日(日) 一時半

テーマ「聞法は問法になつていくか」尚、法座後希望者はカラオケで楽しみます。

○入門式

四月十七日(日) 十時

新しく門信徒に入門される方に受式いただきます。

○常例法座

四月十七日(日) 一時

講師：熊原博文師

【三月の掲示板のことば】

音速は340m/秒 光速は30万km/秒 如来さまの光と呼び声(念仏)は 只今